

# 「むずんが まやば ひきたぐてい」

佐仁小 シマグチで読み聞かせ

奄美市笠利町の佐仁小学校（花房八重子校長、児童11人）で13日、「シマグチによる本の読み聞かせ会」があった。児童がよく知る絵本を保護者がシマグチ（方言）で読み聞かせる新たな試み。児童らは、いつもと一味違う物語の世界観を楽しんだ。

同校は、毎年6月の土曜参観で保護者が読み聞かせを行っている。シマグチによる読み聞かせは、今年度担当の安住亜由紀さん（40）と福愛里さん（37）が「シマグチ伝承活動」に取り組んでいる子どもたちから、知っている本をシマグチで読み聞かせると、読書にもシマグチにもますます興味をもつのではない



か」と企画した。選んだのは、「はらぺこあおむし」「大きなかぶ」「100万回生きたねこ」の3冊。よく知った物語の聞き慣れたフレーズも、「むずんが まやば ひきたぐてい はげー やっと、かぶは ぬけりようたつと」

シマグチの読み聞かせに聞き入る佐仁小学校の児童。13日、奄美市笠利町（提供写真）

となり、会場は本を読み終えるたびに拍手と笑顔に包まれた。

6年生の川口貴津実さん（11）は「初めてシマグチでの読み聞かせをしてもらいましたが、楽しくて、シマグチにも興味が湧いてきたので、機会があったら、次もシマグチでの読み聞かせを聞きたいです」と話した。

同校のシマグチ伝承活動の講師を務める安田重照さん（81）は「素晴らしい取り組み。戦後、電気もテレビも何もなかった時代に、私のおばあさんが毎晩のようにしてくれていた読み聞かせを思い出しました。この読み聞かせが、お互いがシマグチに触れたり使ったりする機会になればいいと思います」と児童らに語り掛けた。

読み聞かせの動画はYouTubeで視聴できます。佐仁のホームページの「PTAの部屋」から、「第1回読み聞かせの様子」をクリックしてください。

おめでとう！

令和2年6月20日（土）

第6号

南海日日新聞の8面にのいました。